



## 初 蝉

灰色の梅雨の雲に覆われて、すつきり  
としない日も多いが、かといつて長雨に  
なるわけでもなく、おかげで園庭の水遊  
びが、日に日に活気を帯びてきている。

そして先週、満を待して、駐車場の一  
角に水遊びの横綱が登場。かつて、鉄の  
骨組みにビニールを張っただけの、簡素  
なものだった頃は、私たち職員の手で  
プールを組みあげるのが、園の夏支度の  
ひとコマだったのだが、10年以上前に、  
この樹脂製のプールとなってからは、そ  
れは素人の手には負えない  
仕事となってしまった。

業者の人たちが、せつせ  
と組み上げてくれる様子  
を、園庭から垣根越しに、食  
い入るように見つめている  
子どもたち。どちらかと言  
うと、淡々とした地味な作  
業なのだが、それがプール  
とわかった者たちにとつて  
は、期待感を掻き立てる特



別な風景なのかもしれない。  
そして、これもまた、人の手によつて  
作られていることを、子どもたちが知る  
のも悪くない。

まだ幼かった頃、近所をぶらつく私が  
出会っていたのは、大人たちの働く姿で  
あった。

農作業、大工仕事、商店、作業場、町  
工場、飯場、養豚、養鶏：当時の自宅の  
周辺は、「街」とは程遠く、まだ多くの  
茅葺き屋根の家屋が残る、集落といった  
風情が色濃かったため、どれも、そのほ  
とんどが、自宅の一角で営まれていた。

その軒先から放たれる、  
様々な音や匂いが、地域一  
体を覆っていたのである。  
そして、その音や匂いの  
変化を辿りながらの下校  
だったので、その家路はい  
つも長かった。ところどこ  
ろで歩みを止めては、目の  
前に広がる、自分の遊びの  
中にはない大人の営みとい  
うものを、飽きもせず眺め

ていたことを思い出す。

垣根越しの子どもたちの眼差しは、あ  
の時代と何も変わってはいないのだ。

この時期の園庭の水道は、子どもたち  
の水遊びでいつも水浸しなのだが、例年、  
足元にあんなにはつきりとした水溜りが  
できていたのかな：遊びを眺めながら、  
そんなことに気がついた。

そういえば、水道周りのコンクリート  
と芝との境に、排水用の側溝があったよ  
うな：記憶違いだったかなと、芝の一部  
を剥いでみると、何と赤茶けた側溝の蓋  
が現われた。芝の侵食が水の逃げ道を塞  
いでいたわけだ。

早速、時間を見つけて、  
側溝の発掘に着手したのだ  
が、側溝の蓋に、芝の根が  
意外にしっかりと密着して  
いて、大量の汗が吹き出す  
重労働となってしまった。  
作業を進めていくと、芝  
生と側溝との間に5〜6セ  
ンチほどの段差ができてい  
ることがわかった。つまり、



かつては、側溝と同じ高さだった園庭が、  
この10年足らずの間に、5〜6センチも  
高くなっていったのだ。

その理由のひとつは、毎年、芝の種を  
覆うため、薄く砂を撒いていること。そ  
して何よりの要因は、芝生の枯れ葉や根、  
樹木の落ち葉などが腐敗分解され、それ  
が土に返って堆積していくからなのだ。

土だけの園庭なら、きつと、靴や雨風  
で削られて、どんどんと低くなっていく  
はずなのだが、草に覆われた園庭は、自  
ら土を作り出しながら、上へ上と、園庭  
自体が育っていくのである。

実は、芝刈りというのは、土に返って  
いく枯れ草を減らし、地面  
が高くなっていくのを抑え  
るといふ、もう一つの役目  
もあるのだ。

発掘ついでに、芝の肥料  
撒き。最後に、その時の相  
棒を紹介させてほしい。彼  
の名は「サンリュウキ」。「散  
粒機」と書くこれは、肥料  
や種撒きに使う「一流」の

道具。まず上部の  
ケースに粒状の肥料  
を入れておく。その  
下の取っ手をクルク  
ルと回すと、さらに  
下の円盤が回転をする。そこへ上から肥  
料の粒を落としていくと、それが、遠心  
力で四方へと見事に飛び出ししていく。  
初めてこいつに出会った時、そのシン  
ブルで、エレガントな仕組みに感激をし  
たのを覚えている。  
仕事が生み出す人知とはすごい。



先週末の早朝、近くの竹林から蝉の今  
夏第一声が響いた。それはほんの短い間  
の出来事だった。そしてまだ一匹だけの、  
小さな声であった。

園長 折井誠司

- 編集 幼保連携型認定こども園せいび
- 編集人 折井 誠司
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 幼保連携型認定こども園せいび
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
電話 042-675-1551  
ファックス 042-677-5643  
Email seibi@kodomo-kyo.jp  
http://kodomo-kyo.jp/